

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 土原 一哉  
国立がん研究センター先端医療開発センター  
トランスレーショナルインフォマティクス分野 分野長

研究要旨

書籍、ウェブコンテンツの「ゲノム検査」に関する解説を担当し、執筆、編集、収録を行なった。がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**A. 研究目的**

患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

班会議に参加し、書籍、ウェブコンテンツの内容を検討した。書籍、ウェブコンテンツの分担項目の執筆、収録を行なった。

**C. 研究結果**

書籍「よくわかるがんゲノム医療」の「ゲノム検査」

」(Q16 がんゲノム検査にはどのようなものがありますか? Q17 次世代シーケンサーとはなんですか? Q18 これまでのがん遺伝子検査とがん遺伝子パネル検査の違いはなんですか? Q19 がんゲノム検査にはどのようなサンプルが必要ですか? Q20 血液で行えるがんのゲノム診断とはどのようなものですか?)について執筆、編集を行なった。同様の内容について、ウェブコンテンツ「がんゲノムネット」に掲載する動画の収録を行なった。

**D. 考察およびE. 結論**

がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**F. 研究発表**

1. 論文発表  
なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし